会員近況

東洋大学
経済学部教授　犬田　章

フレッシュな気持で　OR学会創立時からの会員ですが，会員としての活動業績に乏しいので，今後は私の職場経験をORに活かしてゆくつもりです，昭和19年東京物理学校数学科を卒業し，初めは文部省統計数理研究所に奉職し，間もなく大蔵省理財局の標本調査を手伝い，24年から総理府外国為替管理委員会に転じ，これが27年大蔵省為替局に吸収され，39年に国際金融局となり，45年に退職し，天下りではなく拓殖大学に移るまで外国為替事務を通じ，近代経済学をひととおり勉強して，経済見通しや経済計画作成にも参加させられ，49年から東洋大学で国際金融論と一般教養の数学を担当するという他に前例も後例もあり得ない職歴をたどり，ORに向いた経済社会現象にもたくさん出会いました．ORという次元の高いすばらしい手法を十二分に生かすには，事実の裏の裏まで十二分に通ずることが大切だと体験させられ，再びOR学会新入の気持です．

市邨(いちむら)学園大学
経済学部消費経済学科　浅井　清朗

ORをやりだして約30年　後半は道路標識の設置効果や微量アルコールの視機能への影響など交通事故防止対策の問題を視覚情報の面より手掛けてきた．が，54年4月に消費経済学科というユニークな学科のある新設女子大に移りお嬢さんたちに囲まれて統計学を担当している．最近は女性も男性に伍して管理職の地位につく人が多くなったので本学でも科目にORを取り入れたいと思う．

ORの講義のある大学も多くなったが，その内容は手法の講義のようである．しかし私は16年間実例を中心にしてORの考え方を教えている．

手法に関連した研究をやる人が多いのは結構なことであるが，手法の研究をORと間違ってもらっては困る．OR学会総会の発表も手法に関連したものがほとんどで数学会のOR分科会（このような分科会はないが）に出席しているような違和感をもつ．泥くさいORの発表が多い学会になってほしいものである．

広島大学
工学部計数管理教室　高津　信三

長い学生（および擬似学生）生活に終止符を打って10月より広島大学に勤務しています．自由に研究を進めていくことができる環境を十分生かしていきたいと思っています．最近読んでみて非常に面白いと思った本は，C. Argyris & D. A. Schönの「Organizational Learning : A Theory of Action Perspective」(Addison, 1978) です．この本は，組織の病理・組織の変革ということに興味をもっている方には役立つものと思います．

私の主な研究テーマは組織論をフォーマル化していくことです．現在は，そのための基礎研究——満足化行動，組織調整，組織均衡などの解明——に従事しています．これとは独立して，組織研究の視野を広げるため，公共意思決定問題に関連して社会指標について研究しています．上記のようなテーマでご研究中の方がいらっしゃれば，ぜひとも種々ご教示・ご助言くださいますようお願い申し上げます．

東京大学
工学部電気工学科　茅　陽一

社会システムのモデリングの研究をしていますと，経済・エネルギーのような客観的変量だけでなく，主観的変量も大いに採り入れなくてはならないことがわかります．そしてこの「主観」も「社会の予測」や「モデルの評価」のようにモデルの上位に立ち，マクロフレームを考えるための変量と，よりミクロな状況への主観的評価，たとえば通勤時間に対する評価のような変量とでは客観的状況との関わりの上から異なる扱いが必要となります．当然，本来は（予測・評価）—（政策）—（状況変化）—（状況の評価）—（生活パターン変化）…というフローすべてにアプローチしたいところですが……．

現在，当研究室でもエネルギー分析，グローバルモデルの他，上記のような主観変量を扱うモデルとその方法論を研究していますが，これらをサブシステムとするようなシステムが考えられるのは，まだ大分先のようです．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

福島大学
経済学部経営学科　鈴木　康彦

分解原理について，今から3年前，本誌のVol. 21, No. 12に総合報告を掲載させていただいたことがあります．線形計画の分野では，本道はほとんど解決済みといった状態です．そこで，残された分野ということで，分解原理に取り組んでいるわけです．論文誌にも同テーマで投稿したことがあるのですが，採択までに至りませんでした．現在は，捲土重来を期しております．

ところで，OR学会に出席してみますと，線形計画についての発表は，ほとんどないことに気づきます．以前から感じていたことなのですが，いつまでも線形計画でもあるまいということです．そこで，非線形計画の知識を広めるということで，Avriel, M., Nonlinear Programming : Analysis and Methods, Prentice-Hall, Englewood Cliffs, N. J., 1976. を読んでおります．最近発行された非線形計画のテキスト・ブックとしては，他に，Martos, B., Nonlinear Programming : Theory and Methods, North-Holland, Amsterdam, 1975. と，Bazaraa, M. S., & C. M. Shetty, Nonlinear Programming : Theory and Algorithms, Wiley, New York, 1979. をあげることができます．私としては，Avriel の本は，他の2冊と比べて，基本的なことがていねいに書かれ，叙述に省略されたところが少ないということから，同書を選んだ次第です．

会合記録

（　）内は出席者

編集委員会	12月7日(金)	(8)
研究普及委員会	12月10日(月)	(6)
会長候補者選考委員会	12月17日(月)	(10)
IAOR委員会	12月20日(木)	(6)
庶務幹事会	1月7日(月)	(6)
編集委員会	1月11日(金)	(9)
会長候補者選考委員会	1月14日(月)	(8)
研究普及委員会	1月18日(金)	(8)
ORサロン	1月19日(土)	(10)
理事会	2月4日(月)	(15)
編集委員会	2月8日(金)	(10)

第5回理事会議題

1. 第4回理事会議事録の承認
2. 入退会の承認
3. 会費未納者の処理について
4. 研究部会の新設並びに継続申請について
5. 昭和54年度3/4半期収支計算書
6. 昭和55年度事業計画案
7. 昭和55年度予算案
8. 昭和55，56年度役員，評議員候補者について報告
9. 定期総会までの日程
10. 春季研究発表会の準備状況報告
11. 国際関係報告
12. その他

編集後記▶木々の芽もほころびはじめ，春はもうそこにという気配が感じられるようになりました．▶現在ほど科学・技術において真の創造が期待されているときはないといわれているようです．先月からの近藤先生の特別寄稿は歴史的事実や経験をもって，まさに真の創造をうるための方法について論じておられ大変意義深いものと思います．▶線形計画法といえば単体法という常識をうちやぶって多項式オーダーの解法が見つかった？　というニュースは，われわれのまわりにも出回っていたのですが，情報不足もあってなかなかその正体がわかりませんでした．お忙しいなか伊理先生にその概要とこれにまつわるトピックスをわかりやすく解説していただきました．これでなんとなくそのモヤモヤが晴れた気持ちです．今後いずれかの機会にこの新解法の詳しい解説や評価について紹介してはと考えています．▶今月は春季研究発表会が仙台で開催．発表申し込みも多く東北支部ではうれしい悲鳴とか．編集委員にとっては記事集めの好機．できるだけ多くの会場をのぞかなくては．　(M)

オペレーションズ・リサーチ
昭和55年3月号　第25巻（新シリーズ第5巻）3号　通巻231号
代表者　小林宏治
発行所　社団法人　日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2—4—16　学会センタービル
（電話　03-815-3351～2）〒113
編集人　高橋磐郎
発売所　株式会社　日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5—4—2　〒151
本誌のご注文は直接
日本オペレーションズ・リサーチ学会へ　定価　650円（郵送料含）年間予約購読料 7200円（郵送料含）
本誌への広告お申し込みは日経弘報社（563-2241），明報社（571-2548）へ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．